

「ありがとう」のお返しに

栃木第三小学校

六年

榎本

武威

男

ぼくは小学三年生から野球をやっています。だから土曜日、日曜日、ほとんど友達と遊ぶ事ができません。野球は楽しいけれど、時々きついなあ、と思う事があります。だけれど、それはいつも練習に付き合ってくれているお父さんやお母さんも同じだな、と思いました。土曜日、日曜日、ぼくと一緒に野球です。

まずは朝起こしてもらおう事から一日は始まります。

「起こしてくれてありがとう」。

とは言えずに、ただ

「おはよう」。

と言います。そしてお母さんが、お昼のお弁当や水筒を用意してくれます。当たり前のように受け取って、車で送ってもらいます。

「送ってくれてありがとう」。

とは言えずに、

「いっ てきます。」

と言うだけです。試合中は応えんしてくれたり、暑い時には冷たいタオルを用意してくれます。終わって家に帰ってからも、

「今日はありがとう。」

とは言えずに

「あいつがくれた。」

なんて言っ てしまいます。お父さんやお母さんもつかれているように見えるけど、なかなか素直にありがとうが言えません。

ある日の夕方、一緒に野球をしている美と幼稚園生の妹も呼んで、相談しました。そしてこう決めました。

「今日は兄妹三人だけでご飯を作ろう。」

と言う事に決めました。メニューはカレーです。作り方はパソコンで調べて、紙に書きました。三人で手分けをして野菜を切ります。

弟や妹は危なくて、お母さんは心配そうでした。今日は絶対三人だけで作ると決めました。そして、なべでいためて、カレールーで

味までつけました。少し汗かになりながら、
順巻でかき混ぜてください。お父さん
お母さんに食べてもらったら、

「こんなにおいしいカレーは初めてだよ」と、
言ってくれました。

「ふだんの感謝の気持ちを込めたよ」とぼくが言うと、

「もっとおいしくなったよ。ありがとう」と言ってくれました。

「ぼくのありがとうの気持ちが父さんとお母さんのありがとうでかえってきくとぼくもまたうれしくなりました。」

「ありがとうの気持ちがちゃんと伝えようとの大切さを感じました。」